

令和7年度
帯広市学校教育指導の重点



帯広市教育基本計画の理念
ふるさとの風土に学び
人がきらめき 人がつながる
おびひろの教育

帯広市教育委員会

〔コンセプト〕

子ども、教職員、家庭・地域の
ウェルビーイング

目次

巻頭言 はじめに

[指導の重点]

- | | | | |
|-----|--|-----|---|
| I | 特色ある教育を展開し、
生きる力を育む開かれた信頼される学校経営の推進 | ・・・ | 2 |
| II | 基礎・基本の確実な定着を図り、
自ら学び自ら考える力を育てる指導の充実 | ・・・ | 3 |
| III | 人間的な触れ合いを重視し、
豊かな人間性や社会性を育てる指導の充実 | ・・・ | 4 |
| IV | 自他の生命を尊重し、
心身の調和的な発達を図る体育・健康に関する指導の充実 | ・・・ | 5 |

[学校教育の今日的課題]

- | | | | |
|----|---------|-----|----|
| 1 | 人間尊重の教育 | ・・・ | 6 |
| 2 | 道徳教育 | ・・・ | 6 |
| 3 | 生徒指導 | ・・・ | 7 |
| 4 | 特別支援教育 | ・・・ | 7 |
| 5 | 学校安全 | ・・・ | 8 |
| 6 | キャリア教育 | ・・・ | 8 |
| 7 | 進路指導 | ・・・ | 9 |
| 8 | 情報教育 | ・・・ | 9 |
| 9 | 国際理解教育 | ・・・ | 10 |
| 10 | 環境教育 | ・・・ | 10 |
| 11 | 食育 | ・・・ | 11 |

これからの社会は、人工知能（AI）などのテクノロジーの急速な進化や国際情勢の不安定化、地球温暖化の進行などにより、取り巻く環境が複雑に変化し、世の中の変化を予測しにくくなっている。このような時代の中であって、今を生きる子どもたちが社会の担い手として活躍し、豊かな人生を切り拓いていくことができるようにするためには、ますます教育に求められる役割が重要となってきた。

このような中、新たな教育振興基本計画では、1人1台端末の更なる活用や個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善など、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」に向けた教育の充実、そして日本社会に根差したウェルビーイングの向上が示され、2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の担い手の育成が求められている。

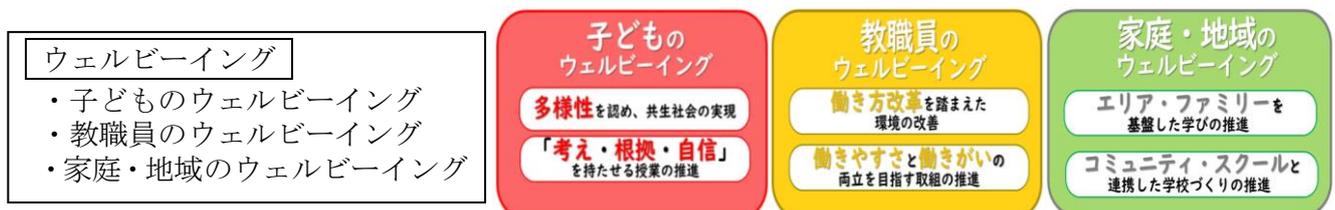
教育現場では、不登校・いじめ重大事態等の増加や学校の長時間勤務や教師不足が課題となる中、「質の高い学び」と「持続可能な学校教育」の両立に向けては、教員一人一人が課題を自分事として捉えながら、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方を考えていくことが望まれる。

学校指導室では、帯広市教育基本計画の理念に基づき、令和7年度教育行政執行方針の具現化に向けて、「令和7年度 帯広市学校教育指導の重点」（以下、「指導の重点」）を示すことにより、学校教育指導の重点及び学校教育の今日的課題について帯広市小・中学校及び義務教育学校と方向性を共有していく。

○ コンセプト「子ども、教職員、家庭・地域のウェルビーイング」の位置付け

令和6年度、ウェルビーイングの要素として、教員一人一人が学校における改革を自分事として捉え、課題解決のために自走するチーム体制と、保護者・地域との協働により、教育の質的向上を図ることで子どものウェルビーイングの向上を図ることが示された。

令和7年度は、令和6年度に示したウェルビーイングに加え、キーワード「ICT」をより実践的な視点で具体化した。その上で、子ども、教職員、家庭地域のウェルビーイングの向上が実現されるよう、次のとおりコンセプトを位置付けた。



「子ども、教職員、家庭・地域のウェルビーイング」のコンセプトは、最新の教育技術を活用して、教育の効率と効果を高めることであり、技術の統合と教育の質の向上を目指すとともに、教育活動を通じた子どもと教師の深い充実感を得られる環境づくりを目指していく。

各学校においては、「指導の重点」を基に方向性を共有するとともに、学校の自主性・自律性を確立し、未来社会を生きる子どもに必要な資質・能力の育成に努めていただきたい。

特色ある教育を展開し、生きる力を育む 開かれた信頼される学校経営の推進



目指そう
指標 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の設問に
「ある」と回答する [参考値小 48.6%、中 41.1%：平成30年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙]

1 全ての子ども 可能性を引き出す 教育課程の 編成、実施、評価、改善

【キーワード】

子どもを主語とし、全ての
子どもの可能性を引き出す

おびひろ市民学による
特色ある教育の展開

重点教育目標の具現化

エリア・ファミリーで
学びと育ちをつなぐ

働き方改革への配慮
教育課程の見直し

- 学習指導要領に基づいて、一人一人の子どもを主語にする学校教育を目指すべく、各学校においては、目指す子ども像や重点教育目標の設定による自校の特色を生かした教育課程を編成・実施し、評価と改善に努める。また、ICTを最大限に活用しながらカリキュラム・マネジメントを機能させることにより、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- ふるさとの歴史や文化、自然環境や産業等を学ぶ「おびひろ市民学」を一層推進することで、帯広市の特色を生かした教育を展開し、ふるさと帯広のよさにふれ、よりよい地域づくりに関わる子どもの育成を目指す。
- 教職員一人一人の意識改革を図り、経営参画意識を高めるとともに、学校評価を適切に実施・公表・活用し、組織マネジメントを確立して、学校改善と活力ある学校経営に努める。また、校務分掌の体制確立や学年・学級経営の連動により、重点教育目標の具現化に努める。
- 「エリア・ファミリー構想」に基づき、9年間を見通した教育課程の編成等、義務教育9年間を通じた連続性・系統性に配慮した一貫性のある教育活動により、エリア・ファミリーによる学びと育ちをつなぐ取組を進める。
- 学校における働き方改革に十分配慮し、学校行事の精選を図るなど、標準授業時数に基づく適切な編成・実施に努める。

2 公教育に携わる 専門職としての自覚と 専門性の深化を図る 研修の充実

【キーワード】

学び続ける教師

専門性の深化と
実践的指導力の向上

えらべる二次訪問による
資質能力の向上

働き方改革推進プランに
基づく、時間の確保

- 「令和の日本型教育」を担う教師には、教育の専門家として確かな指導力を身に付け、人間力の向上を図るための組織的・体系的な校内研修と、生涯を通じて学び続けることが求められており、教師としての自己研修を組織的・計画的に推進する。
- 公開研究会等による研修成果の積極的な公開と、おびひろスクールラボをはじめとした指導主事をはじめ様々な分野の専門家や外部講師の活用により、指導力・専門性の深化を図る。また、教育研究所の長期休業中の教職員研修講座、十勝教育研修センターの各種研修講座、各学校の公開研究会等に積極的に参加し、実践的指導力の向上に努める。
- 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る校内研修や学校課題に応じた「えらべる二次訪問」により資質能力の向上につなげる。
- 「教職員の働き方改革推進プラン」に基づき、教職員の勤務状況の改善に向けた業務の平準化、教育課程の見直しなどを通して、自らの学びを深めるための時間や子どもたちと向きあう時間を確保することで、「質の高い学び」と「持続可能な学校教育」の両立を図る。

3 保護者や地域と 連携・協働した 「社会に開かれた 教育課程」の推進

【キーワード】

コミュニティ・スクールの
導入による
社会に開かれた教育課程

連携・協働関係の強化

帯広市の職員としての自
覚と服務規律遵守

信頼される学校づくり

- 子どもたちの教育は、学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を果たすとともに、相互に連携・協働してこそ効果が上がるものであることから、学校においては、コミュニティ・スクールを活用するなどして、学校・家庭・地域が連携・協働しながら教育活動を充実させ、「社会に開かれた教育課程」の実現を進める。
- ホームページや各種通信等を通して、学校の教育活動に関する情報を積極的に発信するとともに、「学校支援地域本部事業」、「こども学校応援地域基金プロジェクト」等の活用を通して、学校と家庭や地域、関係機関及び異校種間の連携・協働関係の強化に努める。
- 教職員一人一人が教育公務員として自らを厳しく律し、服務規律を遵守する。また、今日求められるスクール・コンプライアンスを徹底するとともに、教職員も地域の一員であり、帯広市の職員であるという自覚を持ち、地域の活動への積極的な参加に努める。
- 体罰やハラスメントは決して行わず、暴言は厳に慎み、地域や保護者との連携・協働による組織的な児童生徒の安全管理に努めることで「信頼される学校づくり」を推進する。

基礎・基本の確実な定着を図り、 自ら学び自ら考える力を育てる指導の充実



【帯広市教育基本計画 個別施策 1、6、9、12】

目指そう 指標 「授業において、課題の解決に向けて自ら考え取り組んでいる」の設問に
「そう思う」と回答する【参考値小 76.1%、中 81.9%：令和4年度年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙】

1 調和のとれた 具体的な 指導計画の作成と 改善

【キーワード】

主体的・対話的で深い学び

カリキュラム・マネジメント

スクール・コラボ

1校1実践

エリア共通アプローチ

- 「子どもを主語」にする学校教育をさらに進めるべく、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、一人一人の思いや願いを生かした学習の場の設定や、問いを多様な他者との協働によって解決するための授業改善を図る。
- 教科等横断的な視点を持ち、指導計画並びに評価計画の作成・改善を行うとともに、学年間・異校種間における系統的・発展的な指導につながるよう、スクールコラボ等を活用するなどし、カリキュラム・マネジメントの充実に努める。
- 全国学力・学習状況調査や標準学力調査等の結果分析を通して、学校及びエリアの傾向や一人一人の児童生徒の学力や学習の状況を把握して課題を明らかにするとともに、各校における学力向上に向けた「1校1実践」、「エリア共通アプローチ」等、組織的な取組を進める。

2 指導方法や 指導体制の工夫と 改善

【キーワード】

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

指導方法の
不断の見直し

主体的な態度を養う
多様な学習スタイル

おびひろ市民学による
地域の教育資源の活用

小学校における
一部教科担任制の導入

連続性・系統性を活かした
エリア・ファミリー構想

- 未来社会を見据え、児童生徒の資質能力を育成するに当たっては、「子どもを主語」にした学びをさらに進め、自ら疑問や課題を持ち、主体的に解決する探究的な学習の中で、「個別最適な学び」「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直す。また、これまでの教育実践とICTを、有効に活用することにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善へつなげていく。
- 変化を見通せないこれからの時代において、新しい社会の在り方を自ら創造することができる資質・能力を子どもたちに育むために、習得・活用・探究といった学習過程全体を見渡し、内容事項を指導することによって育まれる思考力、判断力、表現力等を自覚的に認識しながら、子どもたちの変化等を踏まえつつ指導方法を不断に見直し、改善していく。
- 主体的に学習に取り組む態度を養うために一人一人に応じた学習課題や学習活動を自己選択する機会を設け、少人数指導や習熟の程度に応じた指導、ティーム・ティーチング等、多様な学習スタイルに取り組む。
- 「おびひろ市民学」における探究的な学習を通じ、子ども同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、「協働的な学び」の充実に努めるとともに、地域の人的、物的な教育資源を生かし、地域社会とのつながりを深める。
- 帯広市小中一貫教育推進基本方針に基づき、「小・中学校間の交流・連携」から「一貫教育の充実」への発展に向けたSTEP3の取組を推進するために、小中合同授業研究会の実施、小学校高学年における一部教科担任制の導入、義務教育9年間を通じた連続性・系統性に配慮した一貫性のある教育活動等により、小・中の学びと育ちをつなぎ、連続性・系統性を活かした校種間連携を推進する。

3 児童生徒の よさや指導の成果を 把握する評価の工夫と 改善

【キーワード】

単元を見通した
学習評価

自己評価・相互評価
の充実

指導と評価の一体化

- 学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものであり、「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が単元を見通した授業改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かう学習改善ができるようにする。
- 児童生徒一人一人のよさや可能性、進歩の状況等を的確にとらえるために自己評価・相互評価の充実を図るとともに、児童生徒が課題意識をもって学習を進めていけるよう、学習の見通しを立てたり、学習した内容を振り返ったりする活動を計画的に取り入れる。
- 学習評価は、日々の授業において、児童生徒の学習状況を適宜把握して指導に生かすことに重点をおくとともに、記録に残す観点別学習状況の評価については、毎回の授業ではなく、原則として単元や題材等のまとまりごとに、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行うなど、評価の場面と方法を工夫するなど、指導と評価の一体化を図る。

人間的な触れ合いを重視し、 豊かな人間性や社会性を育てる指導の充実



【帯広市教育基本計画 個別施策 1、2、6、7、11、12、13】

目指そう 指標

「いじめは絶対に許されない」の設問に「そう思う」と回答する

〔参考値小 95.9%、中 96.5% : 平成 30 年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙〕

1 自己実現を 支える 生徒指導の充実

【キーワード】

「支える」生徒指導による
自己指導能力の育成

4 階層の支援構造

カウンセリング
とガイダンス

SSW、心の教育相談員、
家庭訪問相談員、SC等との
チーム学校としての連携

帯広市立学校
生徒指導の手引

- 生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性を伸ばし、子どもを主語として、社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を「支える」ことを目的としており、その目的を達成するため、児童生徒の自己指導能力の育成を目指すものである。
自己指導能力の獲得を支える生徒指導における実践上の視点として、①自己存在感を感受できるような配慮 ②共感的な人間関係の育成 ③自己決定の場の提供 ④安心安全な風土の醸成を行う。
- 生徒指導の4階層の支援構造 ①発達支持的生徒指導 ②課題予防的生徒指導：課題未然防止教育 ③課題予防的生徒指導：課題早期発見対応 ④困難課題対応の生徒指導に基づく働きかけや取組を行う。発達支持的生徒指導とともに、①、②の常態的・先行的な生徒指導を一層重視する。
- 教職員と児童生徒との信頼関係を築き、集団の場面で必要な指導や援助をおこなう「ガイダンス」と、本人が抱える課題に個別に対応した指導を行う「カウンセリング」の双方により発達を支援する。
- 児童生徒が抱える課題は、児童生徒を取り巻く様々な環境が複雑化していることから、医療や心理面に関する専門的な判断の必要性や、福祉面での関係機関との連携の必要性などが高まっており、多様な専門職、あるいは地域の様々な「思いやりのある大人」が教員とともに連携・協働するチーム学校の体制を構築する。また、チーム学校として心の教育相談員、家庭訪問相談員、SC、SSWとの連携・協働を行うこと。
- チームによる連携・協働を実現するために、①一人で抱え込まない ②どんなことでも問題を全体に投げかける ③管理職を中心にミドルリーダーが機能するネットワークをつくる ④同僚間での継続的な振り返りを大切にする。また、令和5年度作成の「帯広市立学校生徒指導の手引」の活用等により、教職員の共通理解を図る。

2 自主的、実践的な態度と 自己を生かす能力を 養う 特別活動の充実

【キーワード】

なすことによって学ぶ

幼保小中連携及び
異年齢集団による交流

家庭・地域等と連携

- 特別活動は、「なすことによって学ぶ」ことを方法原理とし、児童生徒一人一人が学校や学級の生活によりよく適応したり、目的意識を持ち、人間としての生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養ったりすることができるよう、ガイダンス機能の一層の充実を図る。
- 児童会・生徒会活動等、異年齢集団による様々な集団活動を通し、自己有用感を育み、社会性を高める活動を促進するとともに、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的で実践的な態度を育成する。また、帯広市エリア・ファミリー構想に基づく幼保小中連携及び異年齢集団による交流の充実等、長期的な視野に立ち、各発達の段階に応じた取組の充実を図る。
- 家庭や地域との連携を深めながら、ボランティア活動、自然体験活動等の社会体験活動を通し、社会奉仕の精神や生活上のルールの習得、モラルの育成等を図る。
なお、国旗・国歌の指導に当たっては、教科等との関連を図り、国旗・国歌に対する正しい認識を持たせるとともに、それらを尊重する態度を育成する。

3 調和のとれた 心の教育の充実

【キーワード】

道徳科を要とした
全教育活動を通じた指導

豊かな体験による 内面に
根ざした道徳性の育成

- 正義感や公正さを重んじる心、生命や人権を尊重するなどの倫理観、他人を思いやる心や美しいものに感動する心等、豊かな人間性を育み、我が国や郷土の伝統と文化に対する関心や理解を深め、未来への夢や目標を抱いて生きようとする態度を育てる。
その際は、道徳科の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて、道徳的価値及びそれに基づいた自己の生き方についての考えを深め、道徳性を育成する。
- 「おびひろ市民学」による9年間を通じたふるさと教育の充実をはじめ、集団宿泊活動やボランティア活動、職場体験活動や自然体験活動、芸術・文化活動、読書活動、世代間・異年齢交流等の豊かな体験を通して、児童生徒の内面に根ざした道徳性を育成する。



自他の生命を尊重し、心身の調和的な 発達を図る体育・健康に関する指導の充実

【帯広市教育基本計画 個別施策 8、9、11、12】

目指そう
指標

「小・中学校 9年間を見通した授業を行っている」の設問に「そう思う」と
回答する学校 [参考値小 7.7%、中 14.3% : 平成 30 年度全国学力・学習状況調査学校質問紙]

1

体力の向上と、
自ら進んで運動に
親しむ資質や能力の
育成

【キーワード】

エビデンスに基づいた
学校体育の充実

エリア・ファミリー
による授業改善

家庭、地域、関係機関
との連携

- 心と体を一体として捉え、運動や健康に関する課題を発見し、その解決に向けたエビデンスに基づいた学校体育の充実を通して、運動好きな児童生徒や日常から運動に親しむ児童生徒を増加させ、生涯にわたって運動やスポーツを継続し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査や、帯広市体力・運動能力実態調査等の結果により、児童生徒の実態把握を行い、児童生徒の意欲を育む体育・保健体育の授業の改善・充実を図るとともに、学校の教育活動全体を通して運動の機会を拡充するため、エリア・ファミリーを活用した小中一貫教育の視点に基づく取組を行うなど、児童生徒の9年間を見通した体力・運動能力の向上を図る。
- 家庭や地域、関係機関との連携を図り、日常生活においても、自ら進んで運動を適切に実践する習慣を形成し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。また、児童生徒がスポーツに継続して親しむことができる機会を確保するため、地域の実情に応じながら環境の一体的な整備を着実に進める。

2

自らの健康を
適切に管理し、
改善していく
資質や能力の育成

【キーワード】

適切な意思決定・行動選択

帯広らしい食育プログラム

多様性と包摂性

家庭、地域、関係機関
との連携

- 健康に関する身近な生活やそれを取り巻く社会環境の状況から健康課題に気付き、疾病等のリスクを減らしたり、生活の質を高めたりする等、健康に関する課題の解決方法を考え、自他の生活と比較したり、関連付けたりすることで、適切な意思決定・行動選択に役立てる指導を充実させる。
- 生活習慣病や、食物アレルギーのある児童生徒への対応、栄養バランスの取れた食生活等の課題や口腔の衛生等について、「おびひろ市民学」における「帯広らしい食育プログラム」と関連付けながら指導を充実させ、望ましい生活習慣・食習慣の定着を図る。
- 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、性同一性障害や性的指向・性自認など、LGBT等に関わり悩みを抱える児童生徒の実態把握に努めながら、誰もが安心して学ぶことができる環境づくりに努める。
- 家庭や地域、関係機関と連携した喫煙、飲酒、薬物乱用防止、がん教育に関する指導の一層の充実を図るとともに、心と体のバランスや発達の段階に即した性教育の適切な指導に努める。

3

自他の生命を守る
判断力と
実践的な態度の育成

【キーワード】

教育活動全体を通じた
資質・能力の育成

PDCAサイクルによる
改善・検証

感染症対策

- 刻々と変化する自然状況や社会状況に対応し、児童生徒等を取り巻く多様な危険を的確に捉え、児童生徒の発達の段階や学校段階、地域特性に応じた取組を継続的かつ着実に推進する。
その際は、学習指導要領を踏まえ、「生活安全」「交通安全」「災害安全」や従来想定されなかった危機事象の出現等について、「おびひろ市民学」、学校保健や生徒指導等、様々な関係領域と連携しながら、学校の教育活動全体を通して児童生徒が自ら安全に行動し、他者や社会の安全に貢献できる資質・能力を育成する。
- 外部専門家や関係機関と連携した安全点検の徹底、先進的な取組を参考として、事故等の未然防止や発生後の調査・検証、再発防止のための取組の改善・充実をPDCAサイクルとして実施し、学校安全に関する改善・検証を図る。
- インフルエンザ等、様々な感染症に対する正しい知識や予防方法を身に付け、自他の生命を守るために、主体的に判断して感染の拡大防止に努める態度を育成する。

人間 尊重 の教育

【帯広市教育基本計画 個別施策 1、7】

〔改善の視点〕

他者との共生を
目指す教育の充実

おびひろ市民学

民族に関する
教育の推進

アイヌ民族の歴史・文化

性の多様性への
理解促進に係る
教育の推進

多様な性に関する
職員ガイドライン

〔その他改善の視点〕

人権を育成する心の育成

男女共同参画に関する教育の推進

共生社会の形成に向けた教育の推進

がん教育の充実

各教科や道徳科、総合的な学習の時間、特別活動等それぞれの特質を踏まえ、全ての教育活動において基本的人権を尊重するとともに、一人一人が自他の生命を尊び、互いにかげがえのない人間としての尊厳や個性、多様性を認め合い、あらゆる偏見や差別をなくし、支え励まし合う温かい人間関係の中で、心豊かにたくましく生きようとする態度を育む。

- 心のバリアフリーを実現するために、児童生徒がふるさとへの誇りと愛着を持ち、心豊かに同じ社会に生きる人間として、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さについて理解を図るとともに、指導の際には「おびひろ市民学」との連携を図り、実践的な態度を育成する。
- 民族に関する教育を実施するに当たっては、児童生徒の発達段階に十分配慮して行う。特に、指導の際は、アイヌ文化活動アドバイザー派遣事業や、教育研究所作成の指導資料等の積極的な活用を図り、児童生徒がアイヌ民族の歴史や文化について理解を深められるようにする。
- 本市において令和5年2月に改訂した「多様な性に関する職員ガイドライン」を参考に、児童生徒が性の多様性や、性についての正しい知識を理解し、違いを認め合い尊重し、自分らしさを大切にすることができる態度を育成する。

道徳 教育

【帯広市教育基本計画 個別施策 1、6、7】

〔改善の視点〕

道徳性の育成

道徳科を要とした
道徳教育

道徳科における
指導方法の工夫

道徳授業の質的改善
評価の充実

家庭や地域に
開かれた道徳
教育の推進

家庭や地域社会との
相互連携

〔その他改善の視点〕

全体計画や別業に基づいた指導の充実

「指導と評価の一体化」の実現

道徳の質的転換によるいじめ防止

地域ぐるみの道徳教育の推進

家庭や地域との連携を図り、児童生徒の自立心や自律性を高め、生命を尊重する心の育成を重点に置く。また、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国や郷土を愛するとともに、公共の精神を尊び、他国を尊重し国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献しようとする姿勢等、道徳的価値に裏打ちされた人間としての生き方についての自覚を深め、よりよく生きるための道徳性を養う。

- 望ましい人間関係の育成や人間としての生き方への自覚を促し、精神的な成長を図り人格を形成するために、道徳科を要として学校の教育活動全体において児童生徒の興味・関心を考慮し、豊かな体験を通して、児童生徒の内面に根ざした道徳性を養う。
- 道徳科の実施に当たっては、児童生徒が考え、議論し、道徳的諸価値について多面的・多角的にとらえられる道徳授業の質的改善の実現に向けて、指導方法の工夫に努める。
- 児童生徒の学習状況及び道徳性に係る成長の様子を見取り、そのよさを児童生徒や保護者に伝え、一人一人の成長を促すよう努める。
- 地域の人々の参加・協力を積極的に求めるとともに、道徳科の授業を参観日等で積極的に公開する。学校間やエリア・ファミリー内の多様な交流を行い、学校、家庭、地域社会の人々と共通理解を深め、相互の協力によって道徳教育の充実を図る。

生徒指導

【帯広市教育基本計画 個別施策 3、11、13】

〔改善の視点〕

いじめの問題への
積極的な対応

いじめ認知による
「いじめ見逃し0（ゼロ）」

エリア・サミット

不登校への
支援の充実

校内教育支援センター

ICT 活用した支援

ひろびろチョイス

児童生徒の一人一人の個性の発見とよさや可能性を伸ばし、社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己実現を支える。チーム学校における組織的対応を基本とした働きかけや取組を行い「COCOLOプラン」に基づく、いじめ・不登校対策等、積極的な生徒指導を充実させていく。

- いじめの早期発見・早期対応を強化するために、中学校において1人1台端末を活用した「心の健康観察」を活用することをとおして、いじめを正確に認知し、「いじめ見逃し0（ゼロ）」という姿勢を教職員間で共有するとともに、次の段階としていじめを生まない環境づくりを進め、教育活動全体を通じて「いじめは人間として絶対に許されない行為である」ことを指導し、児童生徒が多様性を認め、嫌なことをしない人へと育つよう働きかける。
- 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、組織的ないじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めるとともに、市独自の2月いじめ調査やエリア・サミットによる児童生徒が主体となった取組の充実を図る。
- 全ての不登校児童生徒の学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えるために、校内教育支援センター等、落ち着いた空間で学習・生活できる環境を学校内に設置するよう努める。
- 小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援するために、健康観察でICTを活用したり、相談員やSC、SSWを積極的に活用したり、初期対応と自立支援の更なる充実を図る。
- 継続した家庭とのつながりや、別教室等からのオンライン、教育支援センター「ひろびろ」やオンラインプラットフォームを活用した「ひろびろチョイス」等、関係機関との連携により、学習機会の確保について推進し、学校間及び家庭や地域、関係機関等との連携・協力を図る。

〔その他改善の視点〕

SNS問題への組織的な対応

「性的マイノリティ」に関する理解

教科等の指導と生徒指導の一体化

児童生徒の声を生かした校則の見直し

特別支援教育

【帯広市教育基本計画 個別施策 9、12、13】

〔改善の視点〕

障害の状態や特性の
的確な把握と
効果的な指導

指導計画・教育支援計画
に基づく合理的配慮

連続性のある
多様な学びの場

教職員の
専門性の向上

市作成「手引」

教育相談体制の
改善・充実

特別支援Coの役割

- 障害者差別解消法の趣旨を踏まえ、特別支援学級及び通級による指導を受ける児童生徒はもとより、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の自立や社会参加に向け、一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため
- 長期的・短期的な視点での目標を設定し、指導の方針を明確にした個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成・活用を通じて、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた合理的配慮を提供するとともに、効果的・効率的な教育的支援を実施する。
 - 特別支援学級においては、各教科等の目標及び内容を考慮し、それぞれの年間授業時数を適切に定める。また、一人一人の児童生徒の障がいの状態や特性等に応じて具体的な目標を設定するとともに、自立と社会参加を見据え、一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう、通常の学級、通級による指導、特別支援学級といった連続性のある多様な学びの場の一層の充実を進めるとともに、小・中の学びをつなぐ校種間連携を推進する。
 - 道及び市が行う研修講座の積極的な活用や校内研修、令和4年度帯広市教育委員会発行「特別支援学級の手引（帯広市立学校）」の活用等により、全教職員に求められる特別支援教育に関する専門性の向上に努めるとともに、特別な支援が必要な児童生徒に対する教科等や自立活動の実践力を高め、指導方法を工夫・改善する。
 - 特別支援教育コーディネーターが中心となり、適正就学に向けた教育相談体制の充実を図るとともに、学校内や福祉、医療等の関係機関との間の連絡調整役として、あるいは、保護者に対する学校の窓口として、校内の関係者や関係機関との連携協力を強化する。

〔その他改善の視点〕

児童生徒の指導に生かす評価の工夫・改善

保護者との信頼関係の構築

学校安全

【帯広市教育基本計画 個別施策 3、10、14】

〔改善の視点〕

防災教育の充実

おびひろ市民学による
実践的態度の育成

危機管理体制の 整備と見直し

帯広市子供安全
ネットワーク

危険箇所マップ

学校事故の 未然防止と対策

校内研修
食物アレルギー

児童生徒の健やかな成長と自己実現のため、自ら安全に行動し、社会の安全に貢献できる資質・能力を育成することで、積極的に安心・安全な学校環境の基盤づくりに努める。

また、児童生徒の安全確保のため家庭や地域との協力体制や警察・消防署等の関係機関との連携等、安全・安心のネットワーク機能の強化を図る。

- 火災や地震、台風等の自然災害に備える資質を養い、安全に関する指導の充実を図る。

その際は、「おびひろ市民学」での実践的な親子防災講座の実施、さらに、計画的に避難訓練や集団登下校等を実施し、児童生徒が安全に行動できる実践的な態度や能力を身に付けさせ、実践力を高めることで、自らの命を守り抜くために主体的に行動する態度や能力を育成する。

- 学校安全計画に基づき、緊急時の全教職員の具体的な役割分担や迅速な行動をする体制づくりに努める。また、「Jアラート」や「帯広市子供安全ネットワーク（楽メ）」等による家庭及び関係機関との連絡体制の確認と危機管理マニュアルの見直しを行い、危機管理体制の確立を強固にする。

- 校区の危険箇所マップ（安全マップ）の活用と定期的な更新、登下校時の危機管理等、子ども110番の家等との連携により、地域の実態を把握し、適切な安全対策を講ずる。

- 実習器具や校舎内外の施設設備等の定期的な点検、校外学習の際の十分な安全確認に努める。また、緊急事態発生時に、迅速かつ適切な対応ができるように、救命講習等の校内研修で全教職員において共通理解を図る。

- 日頃から保護者等との連携を図り、児童生徒の健康状態やアレルギーの有無等を把握し、校内での情報共有及び関係機関との連携を適切に行う。

〔その他改善の視点〕

不審者や登下校時における緊急事態への対応

被災・被害児童生徒の心身のケア

キャリア教育

【帯広市教育基本計画 個別施策 1、2、6、7、12】

〔改善の視点〕

キャリア教育 が目指すもの

小：関心・意欲の向上

中：職業観・勤労観の形成

各教科における キャリア教育

主体的・対話的で深い学び

おび学ファイル

基礎的・汎用的能力

児童生徒一人一人が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるようにする。そのため、社会の一員として守らなければならない決まりや行動の仕方を身に付け、時と場合に応じて責任ある行動や態度をとることができるよう、望ましい勤労観・職業観を形成し、社会人・職業人としての自立を促していく。

- 小学校では進路の探索・選択にかかる基盤を形成する時期として、「自己及び他者への積極的関心の形成・発展」、「身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上」、「夢や希望、憧れる自己へのイメージの獲得」、「勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成」を通して、社会的自立・職業的自立のために必要な意欲、態度や能力を育成する。

- 中学校では現実的探索と暫定的な選択の時期として、「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」、「興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成」、「進路計画の立案と暫定的選択」、「生き方や進路に関する現実的探索」を通して、社会的自立・職業的自立のために必要な意欲、態度や能力を育成する。

- 日常の教科等の学習指導において、児童生徒が自己のキャリア形成の方向性や社会と関連付けながら見通しを持ったり、振り返ったりしながら学ぶ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。

- 「おびひろ市民学」において、「キャリア・パスポート」の視点を取り入れた「おび学ファイル（ポートフォリオ）」を義務教育9年間継続して活用するとともに、校種を超えて高等学校においても活用することで、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲を育む。

- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力として、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」によって構成される基礎的・汎用的能力を育む。

〔その他改善の視点〕

発達の段階に応じたキャリア教育の推進

地域と学校が連携したキャリア教育の推進

進路 指導

【帯広市教育基本計画 個別施策 1、2、7、12】

〔改善の視点〕

主体的な進路
の選択と
将来設計

自己を生かす能力

自己の生き方を
考える学習活動

探究的な学習
自己推薦

保護者
地域社会及び
関係機関との連携

継続的な進路指導

児童生徒一人一人が、自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持って、主体的に自己の進路を選択・決定し、生涯にわたる自己実現を図っていくことができるようにする。

- 自己及び他者の理解と尊重、社会の一員としての自覚と責任、学ぶことと働くことの意義の理解、自主的な学習態度の形成、進路適正の吟味と進路情報の活用により、主体的な進路の選択と将来設計ができるよう、人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を育む。
- 労働市場の構造や職業そのものが変わることが予測される中、幼児教育から大学院までが有機的なつながりを持ち、幅広いニーズに応えるものとなるよう指導・支援を行う。
- 児童生徒一人一人が、将来の生き方について主体的に学ぶことができるよう、進路に関する悩みや問題の解決や探究的な学習の充実を図る。
- 自己の能力・適性等を吟味するなど、自分の将来の進路との関連において自分自身を正しく理解できるよう指導・援助を行う。
- 児童生徒一人一人が、将来、社会の中での自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことができるよう支援するとともに、卒業後の生活を豊かにするために、保護者・地域社会及び関係機関との連携を図りながら継続的な進路指導を行う。

〔その他改善の視点〕

計画的、組織的進路指導の推進

ガイダンスとカウンセリング

情報 教育

【帯広市教育基本計画 個別施策 3、11】

〔改善の視点〕

GIGA スクール
構想の充実

これまでの実践と ICT
の最適な組み合わせ

教育データの
効果的な
利活用の推進

校務支援システム

情報活用能力の
育成

個人情報等の保護
著作権保護

学習指導要領に示されている学習の基盤となる資質・能力と「令和の日本型学校教育」(答申)を踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するため、1人1台端末等を円滑に活用した児童生徒への学習指導・生徒指導等の取組を進める。

- 児童生徒が、1人1台端末を最大限に生かし、日常的な活用を積み重ねるだけでなく、端末の持ち帰りを行うとともに、教職員による対面指導での活用、家庭や地域社会とも連携した遠隔・オンライン教育での活用など、これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで、学校教育における様々な課題を解決し、教育の質の向上に努める。
- 児童生徒・教職員・学校・教育委員会が、それぞれの立場から校務支援システム等による蓄積された教育データを効果的に利活用することにより、児童生徒が自分の強みや弱みを踏まえて次の学びにつなげたり、各教師の実践知や暗黙知の可視化・定式化や新たな知見を生成し、より効果的な指導を行ったりできるような取組を推進する。
- 学習指導要領の趣旨を踏まえ、情報活用の力の育成の視点や、個別最適な学びや協働的な学び、主体的・対話的で深い学びを実現していくための1つのツールとして有効かどうかを判断し、適切に活用する。また、情報の真偽を確かめること(ファクトチェック)の習慣付けも含め、情報活用能力を育む教育活動を一層充実させる。

〔その他改善の視点〕

情報モラル教育の充実

教師の AI リテラシー向上

国際理解教育

【帯広市教育基本計画 個別施策 4、7】

〔改善の視点〕

異文化と共生で
きる資質や能力
多様性

外国語教育
の充実

コミュニケーション

ALT（外国語指導講師）

学校や地域の実態に
応じた教育の展開

地域人材の活用

国際化が一層進展している社会において国際社会の一員として主体的に生きていく人材を育成するため、我が国の国土や歴史・文化・伝統を尊重する態度を育成し、他国の文化や歴史についての理解を深め、国際社会に貢献する日本人としての資質を養う。

- 児童生徒が広い視野を持ち、異文化や異なる文化を受容し、共生することのできる態度・能力の育成を図る。
指導においては、各教科や総合的な学習の時間等を通して、ICTなどの新しいツールを活用し、自国や外国の歴史・文化の理解と尊重、地球的視野と多様なものの見方、人間尊重と共に生きるという考え方、表現力、コミュニケーション能力等の国際理解教育の要素について育成を図る。
- 英語をはじめとした外国語運用能力については、コミュニケーションの手段として国際社会で実際に通用するよう、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の能力をバランスよく育成する。
- 小学校においては、発達の段階に応じた指導計画を作成し、ALT（外国語指導講師）や国際交流員等を効果的に活用し、小学校段階にふさわしい体験的なコミュニケーション活動に努める。
また、中学校においては、ALT（外国語指導講師）等との触れ合いを通して、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなど、外国語による実践的・日常的なコミュニケーション能力を養う。
- 各学校において、JICA（独立行政法人国際協力機構）や地域人材の活用など、地域の実情にあった学習内容や方法を開発し、創意工夫を發揮した特色ある国際理解教育を展開する。

〔その他改善の視点〕

SDGs（持続可能な開発目標）をテーマとした教育の充実

海外帰国子女等の教育の充実

環境教育

【帯広市教育基本計画 個別施策 1、7】

〔改善の視点〕

環境についての
理解の深化

身近な環境から

環境保全への
実践的な態度
の育成

帯広市環境基本計画

計画的・継続的な
指導の展開

おびひろ市民学

身近な環境や地球規模の環境問題に関心を持ち、生活体験を軸に、持続可能な社会の構築という視点から、地域のありたい姿の実現に向けて当事者意識を持って自ら課題を見付け解決する能力、環境保全に貢献し働きかけのできる技能や思考力、判断力を養うとともに、環境への責任ある行動が取れる児童生徒の育成に努める。

- 児童生徒が、十勝・帯広の自然の豊かさやすばらしさを実感し、発達の段階に応じて理解を深め、身近な環境から地球規模の環境までを対象に、自ら考え実践に結びつけることができるよう全教育活動を通して環境に配慮しながら主体的な学びや横断的・総合的な環境教育を推進できる指導計画を工夫する。
- 児童生徒が、十勝・帯広の豊かな環境に触れるとともに、地域社会の中でリサイクル活動を行うなど、体験活動を通じた学びの実践により環境問題への意識を高め、帯広市環境基本計画等にある環境保全の考え方の理解や、持続可能な社会の構築のために自主的・積極的に環境保全活動等に取り組む態度や資質・能力の育成を図ることができるよう努める。
- 環境教育において多様な主体同士の対話と協働を通じた学びが求められていることから、外部講師を活用した「おびひろ市民学」の充実を図り、地域の特色や素材を積極的に生かすとともに、各教科等相互の関連を明確にし、日常生活での省エネルギー・省資源についての理解等、発達の段階に応じた体験活動を取り入れ、計画的・継続的な指導に努める。

〔その他改善の視点〕

地域の教育資源の活用や関係機関との連携

ICTを活用した学びの実践

児童生徒が、生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるよう、学習指導要領や帯広市食育推進計画に基づき、学校教育活動全体を通じて、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる児童生徒を育てる食育を推進する。

〔改善の視点〕

食に関する学習
内容の充実

帯広らしい食育プログラム
食育指導専門員

学校給食を生か
した食育の推進

おいしい給食プロジェクト
ふるさと給食

学校と家庭、
地域の連携

帯広市食育推進会議

- 「おびひろ市民学」を中核としながら義務教育9年間を見通して、児童生徒が栄養バランスや食の生産に対する関心や理解を深めるような農業体験等の体験を重視した教育活動を行うとともに、栄養教諭及び食育指導専門員が食を通して地域社会や自身の健康、ふるさとのよさについて理解を深められる授業を行い、食に関する学習内容の充実を図る。
- 十勝・帯広の基幹産業である農業への理解を深める食に関する正しい知識や望ましい食習慣、地域の自然や産業、食文化、アレルギー対応に関する理解を深めさせるため、指導や環境づくりに配慮する。また、地場産食材を活用した「ふるさと給食」や「おいしい給食プロジェクト」等を通じて、「畑作四品」への理解など、地域の農畜産物への関心を高める。
- 朝食を欠食する児童生徒の割合が全国より高いという実態を踏まえ、帯広市教育委員会が設置する「帯広市食育推進会議」の「食育推進部会」が開催する食育講演会等を活用し、家庭や地域と連携した食に関する啓発リーフレット等により課題の解決を目指す。

〔その他改善の視点〕

食に関する全体計画の充実

学校給食を生かした食育の推進